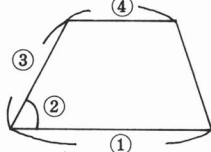


。ここでは、一組の平行線に交わる2つの直線を引いてかくことと、指示された大きさの台形を方眼ノートを使ってかくことを行なう。

(2) 思考過程を明らかにしたノート作り



。左図のように必要にして十分な条件を満たし子どもの思考過程の見えるノートにすること。

(3) つまづき

。三角定規を用いて平行線をかけない。分度器を用いて必要な角度がとれなかったり、作図の順番が分からないこと。

3. 計画…………… (略)

4. 概要と考察

(1) 研究の経過

① 検証までの準備…………… (略)

② 検証授業計画

ア. 単元名 四角形

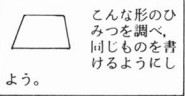
イ. 指導計画 (本時  $\frac{8}{14}$ 時)

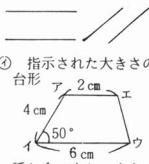
ウ. 本時のねらい

台形の定義を理解し、平行な2本の直線や方眼紙を使って台形を作図することができるようにする。

エ. 指導過程

仮説との関連

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点 ※評価
1.	本時の学習の目あてをつかむ。 (1) 既習事項の性質を確認する。 (2) 課題を知る  	5	○ 既習事項である長方形・正方形の模型を用いし、性質を想起させる。  ※ 台形のひみつを調べようとする意識が高まったか(観察・発表)
2.	調べる		
3.	台形の定義を活用して、台形を作図させる。	20	

	 <p>① 指示された大きさの台形</p> <p>② 話し合いをし、まとめる。</p>	<p>○ 一組の平行線を書きこんだ用紙を与え、自由に書かせる。</p> <p>自力で解決を試みる過程でノートを活用させ、自分なりの方法でノートに書かせる。自分の考えのところに印をつけ形として残すようにする。</p> <p>※ 思考過程を明らかにした作図ができたか。(ノート)</p>
発	<p>4. 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 台形の弁別</li> <li>○ 台形の定義・性質</li> </ul>	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一組の辺が平行になっていることを三角定規で確かめさせる。</li> <li>○ 個人差を考慮した問題とし、全員ができるようにする。</li> </ul>
展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 与えられた直線を一边とした台形の作図</li> </ul> <p>5. まとめをし、次時の学習課題をつかむ。</p>	<p>5</p> <p>つまづきのある児童に対してノートをふり返らせ、個別指導をする。</p> <p>※ 直観的でなく、定規を使い、台形の弁別・作図ができたか(プリント)</p>

(2) 検証と考察

① 検証の観点…………… (略)

② 授業の考察

ア. 課題把握の段階では、長方形や正方形の違いを辺の長さの違いに着目し、似ている点を平行、垂直、4つの角が直角であるという構成要素や位置関係を目を向けていた。

イ. 見通しをもつ段階では、ほとんどの児童が学習プリントに三角定規をあて、二直線の幅を調べたり、平行関係をとらえようと試行錯誤していた。

ウ. 解決の段階での指示された大きさの台形の作図では、1時間目ということで大分低抗があったので、条件の角度を解いて自由に作らせた。

エ. 発展の段階では、台形の弁別、定義の理解がよく、台形の作図題においては、番号をつけながら必要にして十分な条件でかいていた児童が69%ほどいた。